

【紀行】 気になる三角点峰を訪ねて

かざはややま
風早山—あじさい山、城山
やま
しろやま
埼玉県

藤宗 正彦

風早山—あじさい山

奥武蔵のぶな（様）峠から北東に延びる尾根上に667・1の三角点峰がある。

地形図にも登山地図にも山名は記されていないが、古いガイドブックや古い昭文社の登山地図には羽賀山と表示され、実際かつての山頂にはその山名板も取り付けられてあったという。

それが近年になって風早山と呼称されるようになったらしいが、現況はどうなっているのか気になる山である。

ことと近接する隣町越生町に属する大平尾根にも同じ羽賀山と称する566・4の三角点峰がある。こちらは

昭文社の登山地図に明確に山名が表示され、明瞭な登山道も通じているため登頂するハイカーも多い。

ところが、地図にはまぎれもなく三角点記号が入っているのに、ここを訪れた誰もがその三角点標石を見たという人はいない。

筆者もかつて仲間とここに登頂した折、ざっと三角点標石を探してみたが見当たらず、その時は気になりながらも、通過してしまっただけの出がある。

今度は独りで訪れて周辺を隈なく探査してみたいと気になっていた山である。

同じ越生町で城山と言えば、一般的には大築山を指すが、ここで気になる

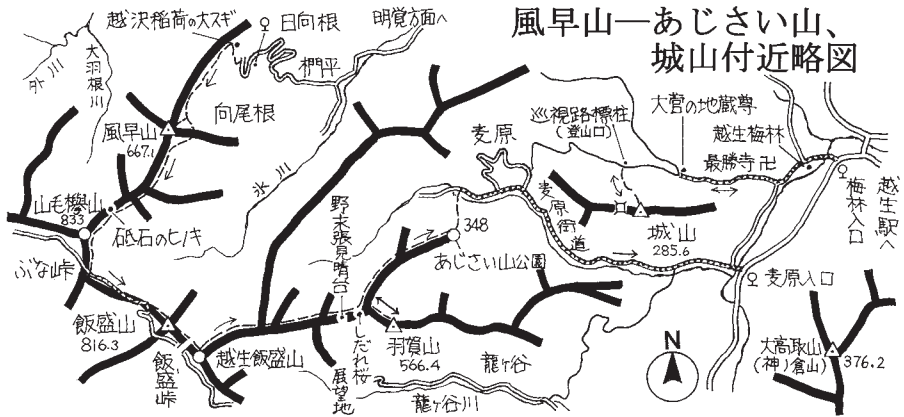


風早山山頂の三等三角点標石

城山は285・6の三角点峰である。ここもS社の登山地図には山名が表示されているが、登山道などの記入はなく、好事家向きの山と言えよう。

地図には三角点記号が明示されているが、その三角点が地中に埋められたコンクリート製の保護枠の中にあると

風早山—あじさい山、 城山付近略図



いう変わりものだ。どういう状態なのか、ぜひ現地を訪れてみたい気になる一峰である。

JR八高線の明覚で下車する。ときがわ町のせせらぎバスセンターまでは県道172号線を歩く。日向根行きワンプックスカートのバスに乗り、終点まで運んでもらう。

集落最上段にかつては小学校があったらしいが、今はその廃校跡に「くぬぎむら体験交流館」ができています。そのすぐ先に「大杉方面横峠、木のむら」への道標があった。

ぶな峠に向かうこの道は、往昔は吾野方面との交流を密にした、歴史ある峠越えの旧道だったのだ。

尾根道に出る前に越沢稻荷の大スギに寄って行く。旧道の尾根道は、今は拡幅されて林道のように歩きやすい。大スギから40分ほど歩くと入り口に丸太が2本置かれた林道が左に分岐する。その手前50メートルほどの右手(西)に作業道が上っているが、それに入る。

緩やかな道はその先で左にカーブして尾根に入っていくが、すぐうやむやになって消えてしまう。しかし、もう右手の高みが目指す風早山で、そこまでは踏み跡はないが、藪もなくわずかな距離なので、急斜面をかき登って頂上に立つ。

なるほど「羽賀山」の山名表示はすでに見当たらず「風早山」の新しい山名板がヒノキの幹に取り付けられてあった。この地域一帯を風早というらしくそれに由来する山名なのであろう。

ちなみに今までの「羽賀山」について、地元役場の人に尋ねてみると、そんな山名は聞いたことがないというのであった。

ヒノキ林の中で展望はないが、ピークらしい趣があり、汚れない大理石の三等三角点標石(点名「桐平」)が埋設されてあった。

元の林道に戻り、西平方面に幅広の林道が分岐する三差路を直進する。風早山へは本来この分岐から取り付くのが一般らしい。草に埋もれたかすかな

踏み跡と赤テープが杉林の中に延びていた。

分岐から道はしばらく舗装路となりそれが再び土道に変わると右手に「砥石のヒノキ」が現れる。巨木とともに山ノ神の祠が祭られてあり、峠越えする往來の旅人の守り神だったのである



あじさい山公園見晴台

う。

ここを過ぎるとほどなく林道から分かれて右へ踏み跡が上がつている。道標など何もないが、これが山毛櫛山への登り口である。

最初は穏やかな道だが徐々に傾斜を増し、最後は立ち木をつかんで体をずり上げるような急坂で頂上に着いた。

何の表示もない植林の中の平頂で刈場坂峠方面からの縦走路がぶな峠に下っている。

ひと下りしたぶな峠は山岳観光道路、グリーンラインが通り、先ほどまで歩いて来た日向根からの旧道が左から合流する。自然石に刻まれた石田波郷の句碑「万緑を顧るべし山毛櫛峠」もあった。

しばらくはグリーンラインを歩いたら、山道に入ったらしながら飯盛山を越える。飯盛峠に下ってグリーンラインから大平尾根の基点となる越生飯盛山への取り付きには注意を要する。

道標も何のサインもないが、かすかな踏み跡が左の尾根に付いており、そ

れを見逃さずにほんの5分ほどの急坂を登れば頂上である。

ごく狭いピークには以前にはなかった立派な山名板が設置され、それには「飯盛山（龍ヶ谷富士）越生町最高峰」と表示されてあった。

ここから北東に下る急下降の尾根に



飯盛山（龍ヶ谷富士）山頂



城山山頂の埋設三角点

入る。このピークを巻く左からの明瞭な道に合流したら、右（東）に進む。遊歩道のように幅広の道はその先で龍ヶ谷に下る舗装林道に出た。が、すぐ左上の尾根上の山道をたどるようになる。

道標があつて左へ大築山方面への道

が分岐すると、また林道を歩くようになり、野末張見晴台に着いた。

ここは東京スカイツリーと同じ高さで、天候に恵まれれば日光白根山、谷川岳、赤城山、筑波山まで一望されるという。正月の初日の出の最適の場所として近年人気スポットにもなっているらしい。

下って行く林道をつち切つて行くともた林道に出る。林道と分かれて山道に入ると「しだれ桜」が植樹された展望地に出た。丸太ベンチも置かれている。

この先で道標のある「あじさい山公園」への分岐をいったん見送つて直進、左に上がる尾根道に入つて一投足で羽賀山に着いた。

ヒノキの植林の中で、眺めはないが静寂に満ちたピークらしい雰囲気である。さて肝心の三角点標石は？と頂上一帯を探索してみたが、やはり見当たらない。

後日、国土地理院に問い合わせたところ「明治35年に埋設した当時は存在

していたのは確かだが、それが以後どうなったかはわからない…」ということであつた。点名は「羽加山」である。あじさい山公園への分岐まで戻り、林道のような幅広の道を下って行く。あじさい山公園の上端の見晴台に立つと、椅子付きのテーブルが置かれ休憩所のような建物もあつたが、周辺は雑草に埋もれ、人影は絶えているようであつた。

それもそのはず「公園のあじさいが病気のため花が咲かなくなつて、目下その再生のために尽力している…」との看板が麓に立っていた。しかしここからの眺めはたいしたものだ。

麦原の集落から大築山山稜などが一望される。遊歩道を下つて麦原川を渡り「ヘルスロード」と言われる麦原街道に出てバス停に向かった。

城山

越生駅前からバスで「梅林入口」下車。バス道路と分かれて右の道に入り越辺川を渡る。梅林に沿う道をその先

の三差路で右折し青龍山最勝寺参道前を通って「大菅の地蔵尊」など歴史を語る石碑が並ぶ三差路を左折して山の中へと入って行く。

ほんの5、6分も歩くと「西上武幹線214号入口」の巡視路標柱が立っている。そこから細い踏み跡に入り粗末な木橋で沢を渡る。山腹をジグザグに急登して尾根に乗る。さらに尾根を急登して頂稜に出ると道は水平となり頂上に導かれた。

頂上は大きな214号鉄塔が占拠しており、樹林越したが西方から南面にかけて眺めがよい。問題の三角点標石は鉄塔の下の頑丈なコンクリートの蓋にふさがれた地中にあるらしく、その蓋に直径2センチほどの陶器製の三角点標石存在を表示した「名板」と言われるものが付いていた。

国土地理院によると、こうした地下埋設の三角点は特段珍しいものではなく、測量に使用する時は蓋を外して三角点が見える状態にするのだという。

「特段珍しいものではない」というのが、

山でこんな地下に格納された三角点に接したのは、長い登山人生で初めてのことである。

下山は往路を引き返した。

(15年6月28日(日)ほか歩く)

付記 城山下山後、時間が許せば近くの上谷にある県下最大の巨木大クスを訪ね、そこから六万部塚や雨乞山に登るとよいだろう。

●コースタイム

日向根バス停―15分―越沢稲荷の大スギ―40分―風早山―40分―山毛樺山―5分―ぶな峠―20分―飯盛山―10分―越生飯盛山―35分―野末張見晴台―10分―しだれ桜展望地―10分―羽賀山―40分―あじさい山公園―10分―麦原街道―40分―麦原入口バス停(バス越生駅経由) 梅林入口バス停―15分―最勝寺―30分―登山口―20分―城山―15分―登山口―40分―梅林入口バス停

〔計4時間35分・2時間〕

●費用

池袋⇨越生 東武 720円
越生⇨明覚 JR 190円

せせらぎバスセンター⇨日向根

ときがわ町代替バス 360円

麦原入口⇨越生駅 バス 240円

越生駅⇨梅林入口 バス 200円

●問い合わせ先

川越観光バス 0493-56-2001
ときがわ町代替バス 0493-65-1521

●地図

越生 正丸峠(2万5千) 東京(20万)

磐梯山を正面に、裏磐梯の中心、五色沼入口に建つ公共の宿



磐梯山・安達太良山・西吾妻山登山、デコ平湿原や裏磐梯に広がる19のトレッキングコースのベースに最適

●各登山口まで無料送迎致します ●お一人様でもお気軽にご利用ください

裏磐梯国民宿舎

〒969-2701 福島県耶麻郡北塩原村五色沼入口

TEL 0241-32-2923 <http://www.goshikinuma.jp>

宿泊料金 ●1泊2食付7,236円~7,560円 ※1泊朝食付きや素泊まりも承ります
施設 ●和室13室(タオル・ハブラシ付き、冷暖房完備)、浴室(朝も入浴できます)